

巻末資料

猛禽類調査

表 調査日別の確認個体数状況

重要猛禽類一般生態

ミサゴ 観察記録と確認位置図

ハチクマ 観察記録と確認位置図

オオタカ 観察記録と確認位置図

サシバ 観察記録と確認位置図

クマタカ 観察記録と確認位置図

表 一般鳥類確認一覧

ミソゴイ調査

ミソゴイ一般生態

写真帳

打合せ・協議記録簿

表 調査日別の確認個体数状況

表 猛禽類 調査日別の確認個体数状況

調査日			確認種						
年	月	日	ミサゴ	ハチクマ	トビ	オオタカ	サシバ	クマタカ	
23	4	6	4	0	2	0	8	3	
		9	3	0	5	0	22	0	
		10	1	0	5	0	21	0	
		13	8	0	3	1	29	0	
	5	1	0	0	2	0	6	0	
		8	2	4	3	0	32	0	
		17	6	5	3	0	37	0	
		18	3	3	8	0	24	0	
		22	0	2	1	0	18	0	
		30	0	0	2	0	23	0	
	6	5	0	0	3	0	21	0	
		6	1	1	5	0	42	0	
		12	1	0	1	0	16	0	
		13	0	0	2	0	48	0	
		20	1	0	0	0	9	0	
		28	0	0	1	0	12	0	
	7	1	0	0	1	0	3	0	
		2	1	0	0	0	5	0	
		9	1	2	2	0	24	0	
		10	2	2	3	0	6	0	
	8	8	1	3	1	0	0	0	
		21	0	1	1	0	1	1	
		22	1	0	2	1	10	4	
		29	0	2	3	0	1	0	
		30	0	5	1	0	6	0	
	9	5	0	2	1	0	3	0	
		7	0	1	6	1	4	1	
	合計			36	33	67	3	431	9

重要猛禽類一般生態

ミサゴ

Pandion haliaetus haliaetus (Linnaeus)

タカ目/タカ科

全長： 55cm 64cm
翼開張： 157～174cm

生息地： 全国
生息場所： 海岸、大きな河川、湖
産卵時期： 4月
営巣場所： 海岸の岩・岩礁、水辺付近の大木



重要種選定理由

環境省RDB： 準絶滅危惧種
環境省RL： 準絶滅危惧種
石川県RDB： 準絶滅危惧種

一般習性

日本各地の内陸の大きな川や湖沼の近くで繁殖する。留鳥だが、北日本のものは冬期に南へ移動し、本州以南で越冬する。

主に魚を餌とする。非繁殖期は、一日の大半を水辺の木や岩、杭の上などに止まって過ごし、そこから飛び立ち、水面の上空を飛翔しながら水中の魚を探す。獲物を見つけると、ホバリングをして狙いを定め、翼を折り曲げて頭から水に突っ込んでいく。獲物は、木の枝や岩の上などの食事場へ運んで食べる。水の汚濁はミサゴに餌を捕れなくしており、個体数を減少させる要因の一つであると考えられている。

3月末から4月につがい形成される。同じつがい同じテリトリーを占有することが多く、巣は代々使用される傾向がある。一般に、巣は水際に立つ尖った岩の頂上部、人気のない海岸や河岸、湖岸などの断崖の棚、水辺近くのマツ等の地上10～30m程度の樹冠に作られる。

石川県での分布および確認状況

県内では里山で繁殖し、能登半島を中心とした県内の水辺では、比較的普通に見られる。水辺の岩壁やアカマツなどの樹幹部に営巣している。繁殖が確認されている地域も、能登半島に多い。

参考資料：

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」(山と溪谷社. 1992)

「図鑑 日本のワシタカ類」(文一総合出版. 1998)

「石川県の鳥類」(石川県環境安全部自然保護課. 1998)

ハチクマ

Pernis apivorus japonicus Kuroda

タカ目/タカ科

全長： 57cm 61cm
翼開張： 121～135cm

生息地： 本州以北
生息場所： 低山～丘陵の林
産卵時期： 6月
営巣場所： 林内の大木



重要種選定理由

環境省RDB： 準絶滅危惧種
環境省RL： 準絶滅危惧種
石川県RDB： 準絶滅危惧種

一般習性

日本には4月中旬から5月下旬にかけて渡ってくる、夏鳥である。通常本州以北で繁殖し、8月中旬から9月中旬に秋の渡りが行われ、東南アジアで越冬する。

低山の林にすみ、林内や林縁、林間の空き地で餌を捕る。主に昆虫を餌とし、特にハチの幼虫や蛹を好むが、カエル、ヘビ、トカゲ、鳥類、小形哺乳類なども捕る。上空を飛翔しながら、あるいは枝移りをしながら樹上から見張り、親バチが巣に出入りするのを探す。

春の渡りを終えて繁殖地に戻ってくると同時に、ディスプレイを始める。ディスプレイは繁殖期初期に頻繁に行われるが、雛が大きくなった8月頃再び活発になる。巣はナラ類などの地上10～25m程度の枝上に作られる。タカ類やカラス類の古巣を補修して再使用することが多く、数年間連続して使用することもある。

石川県での分布および確認状況

県内では加賀、能登の低地帯に比較的普通に見られる。スギ、アカマツなどの針葉樹やコナラなどの落葉広葉樹に営巣している。1991年に、加賀と能登ともに初めて繁殖が確認された。

参考資料：

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」(山と溪谷社. 1992)

「図鑑 日本のワシタカ類」(文一総合出版. 1998)

「石川県の鳥類」(石川県環境安全部自然保護課. 1998)

オオタカ

Accipiter gentilis (Linnaeus)

タカ目/タカ科

全長：50cm 56cm
翼開張：106～131cm

生息地：全国
生息場所：亜高山～低地の林
産卵時期：4月～5月
営巣場所：林内の大木



重要種選定理由

環境省RDB：絶滅危惧 類種
環境省RL：準絶滅危惧種
石川県RDB：絶滅危惧 類種
種の保存法：国内希少野生動植物種

一般習性

留鳥だが、日本では山陰から近畿以北で繁殖し、冬期には高地や寒冷地のものの一部は低地、暖地へ移動する。

亜高山帯から平地の林に生息するが、獲物を求めて農耕地や水辺などの開けた場所でも出現する。小形から大形の鳥類を餌とすることが多いが、小形哺乳類も捕る。狩りをする時は、木に止まって獲物を待ち伏せたり、羽ばたきと滑空を交えてゆっくり飛翔しながら獲物を探す。獲物の追跡は執拗である。捕った獲物は、近くの地上で食べるが多い。

渡りを行わない地域では、つがいは生涯相手を変えず、非繁殖期も営巣地の近くで離れずに過ごすといわれる。早いものではディスプレイは1月に始まり、巣作りは2月に始まる。営巣環境は平地、丘陵、高原、山地の林であり、近年の活発な開発により営巣可能な場所が減少している。営巣木は、林縁近くか、林内の開けた場所近くで選ばれる。

石川県での分布および確認状況

県内全域の平地で生息が確認されているが、繁殖ペアは多くない。アカマツに営巣する例が多いが、スギ、モミなどでの営巣も見られる。1990年に能登で、1991年に加賀で初めて繁殖が確認された。

参考資料：

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」(山と溪谷社. 1992)

「図鑑 日本のワシタカ類」(文一総合出版. 1998)

「石川県の鳥類」(石川県環境安全部自然保護課. 1998)

サシバ

Butastur indicus (Gmelin)

タカ目/タカ科

全長： 47cm 51cm
翼開張： 103～115cm

生息地： 東北以南
生息場所： 低地～丘陵の林
産卵時期： 5月
営巣場所： 林内の針葉樹



重要種選定理由

環境省RDB： -
環境省RL： 絶滅危惧 類種
石川県RDB： 絶滅危惧 類種

一般習性

日本には4月頃に東南アジア方面から渡ってくる、夏鳥である。本州の岩手、秋田両県から九州の間で繁殖し、10月頃に秋の渡りを行う。沖縄で越冬するものもいる。平地から標高800m程度までの山や高原のアカマツ林やスギの植林、落葉広葉樹と針葉樹の混交林などに生息し、水田や草地、川岸などの開けた場所で餌を捕る。そのため、谷に田が入り込んだ地域などが好まれる。主にヘビ、トカゲ、カエル、昆虫類、小形哺乳類を餌とし、木の枝などに止まって地上を見張る。ディスプレイは、繁殖地に戻るとただちに始まる。つがいの雄は繁殖期を通じて、つがい相手以外の個体に対して攻撃的である。巣は、山地内のアカマツやスギの地上10～20m程度の枝上につくられる。同じ巣を補修して連続使用することが多いが、人里に近い環境に営巣するため、人為的变化の影響によって古巣が使えないことがある。

石川県での分布および確認状況

県内の平地から山地帯の谷間の樹林地に生息、繁殖し、比較的普通に見られる。里山の水田の減少や農薬使用により、餌となるカエルが減少しており、減少傾向にある。

参考資料：

- 「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」(山と溪谷社. 1992)
- 「図鑑 日本のワシタカ類」(文一総合出版. 1998)
- 「石川県の鳥類」(石川県環境安全部自然保護課. 1998)

クマタカ

Spizaetus nipalensis (Hodhson)

タカ目/タカ科

全長：72cm 80cm
翼開張：140～165cm

生息地：全国
生息場所：亜高山～低山の森
産卵時期：3～4月
営巣場所：広い森林内のモミやコメツガなど



重要種選定理由

環境省RDB：絶滅危惧 B類種
環境省RL：絶滅危惧 B類種
石川県RDB：絶滅危惧 類種
種の保存法：国内希少野生動植物種

一般習性

北海道から九州の山地の林で少数が繁殖する留鳥であるが、周年同一地域に生息していることから、平野部ではほとんど見られない。
亜高山から低山の森林に生息し、山間の伐採地や草地、開けた谷などで餌を獲る。主にノウサギなどの中型哺乳類やヘビ類、鳥類を餌とする。地上1～15mの空間を飛びながら、または木の枝などに止まって地上を見張って獲物の出現を待つ。
留鳥性が強いことから繁殖活動に入るのは早く、12月下旬頃から営巣地上空でつがいディスプレイを活発に行うようになり、1月中旬には営巣を開始する。毎年繁殖するつがいと隔年で繁殖するつがいがある。
営巣地は低山から亜高山の闊葉樹と針葉樹の混交林、針葉樹林、スギやヒノキの植林地などである。同じ巣を毎年使用することもあれば、かつて放棄した古巣を再構築することもある。

石川県での分布および確認状況

県内では医王山以南に広く分布しているが、数は多くない。白山地域では繁殖確認され、アカマツに営巣することが多い。他地域では、スギ、ゴヨウマツ、モミなどの針葉樹や、ブナ、ケヤキ、ミズナラなどの落葉広葉樹での営巣も知られている。

参考資料：

- 「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」(山と渓谷社. 1992)
- 「図鑑 日本のワシタカ類」(文一総合出版. 1998)
- 「石川県の鳥類」(石川県環境安全部自然保護課. 1998)

ミサゴ 観察記録と確認位置図

ハチクマ 観察記録と確認位置図

オオタカ 観察記録と確認位置図

サシバ 観察記録と確認位置図

クマタカ 観察記録と確認位置図

表 一般鳥類確認一覽

目名	科名	種名	学名	生活型	確認数
キジ目	キジ科	キジ	<i>Phasianus colchicus robustipes</i>	(繁)留鳥	3
カモ目	カモ科	オシドリ	<i>Aix galericulata</i>	(繁)留鳥	4
カモ目	カモ科	ヒドリガモ	<i>Anas penelope</i>	冬鳥	1
カモ目	カモ科	マガモ	<i>Anas platyrhynchos platyrhynchos</i>	冬鳥	45
カモ目	カモ科	カルガモ	<i>Anas zonorhyncha</i>	(繁)留鳥	12
カモ目	カモ科	コガモ	<i>Anas crecca crecca</i>	冬鳥	24
ハト目	ハト科	キジバト	<i>Streptopelia orientalis orientalis</i>	(繁)留鳥	28
カツオドリ目	ウ科	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo hanedae</i>	冬鳥	6
ペリカン目	サギ科	アマサギ	<i>Bubulcus ibis coromandus</i>	(繁)夏鳥	2
ペリカン目	サギ科	アオサギ	<i>Ardea cinerea jouyi</i>	(繁)留鳥	35
ペリカン目	サギ科	ダイサギ	<i>Ardea alba alba</i>	(繁)留鳥	59
カッコウ目	カッコウ科	ホトトギス	<i>Cuculus poliocephalus</i>	(繁?)夏鳥	4
アマツバメ目	アマツバメ科	アマツバメ	<i>Apus pacificus kurodae</i>	(繁)夏鳥	1
フクロウ目	フクロウ科	フクロウ	<i>Strix uralensis hondoensis</i>	(繁)留鳥	1
ブッポウソウ目	カワセミ科	アカショウビン	<i>Halcyon coromanda major</i>	(繁)夏鳥	3
ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ	<i>Alcedo atthis bengalensis</i>	(繁)留鳥	4
ブッポウソウ目	カワセミ科	ヤマセミ	<i>Megaceryle lugubris lugubris</i>	(繁)留鳥	1
キツツキ目	キツツキ科	アカゲラ	<i>Dendrocopos major hondoensis</i>	(繁)留鳥	6
キツツキ目	キツツキ科	アオゲラ	<i>Picus awokera awokera</i>	(繁)留鳥	1
スズメ目	サンショウクイ科	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus divaricatus</i>	(繁)夏鳥	2
スズメ目	カラス科	カケス	<i>Garrulus glandarius japonicus</i>	(繁)留鳥	75
スズメ目	カラス科	オナガ	<i>Cyanopica cyanus japonica</i>	(繁)留鳥	1
スズメ目	カラス科	ハシボソガラス	<i>Corvus corone orientalis</i>	(繁)留鳥	7
スズメ目	カラス科	ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos japonensis</i>	(繁)留鳥	4
スズメ目	シジュウカラ科	ヤマガラ	<i>Poecile varius</i>	(繁)留鳥	9
スズメ目	シジュウカラ科	シジュウカラ	<i>Parus minor minor</i>	(繁)留鳥	14
スズメ目	ヒバリ科	ヒバリ	<i>Alauda arvensis japonica</i>	(繁)留鳥	94
スズメ目	ツバメ科	ツバメ	<i>Hirundo rustica gutturalis</i>	(繁)夏鳥	1
スズメ目	ツバメ科	イワツバメ	<i>Delichon dasypus dasypus</i>	(繁)夏鳥	1
スズメ目	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis amaurotis</i>	(繁)留鳥	4
スズメ目	ウグイス科	ウグイス	<i>Cettia diphone cantans</i>	(繁)留鳥	39
スズメ目	ウグイス科	ヤブサメ	<i>Urosphena squameiceps</i>	(繁)夏鳥	2
スズメ目	エナガ科	エナガ	<i>Aegithalos caudatus trivirgatus</i>	(繁)留鳥	3
スズメ目	メジロ科	メジロ	<i>Zosterops japonicus japonicus</i>	(繁)留鳥	12
スズメ目	ムクドリ科	ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>	(繁)留鳥	18
スズメ目	ヒタキ科	クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>	(繁)夏鳥	14
スズメ目	ヒタキ科	コマドリ	<i>Luscinia akahige akahige</i>	(繁)夏鳥	42
スズメ目	ヒタキ科	キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	(繁)夏鳥	7
スズメ目	スズメ科	スズメ	<i>Passer montanus saturatus</i>	(繁)留鳥	47
スズメ目	セキレイ科	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea cinerea</i>	(繁)留鳥	1
スズメ目	セキレイ科	ハクセキレイ	<i>Motacilla alba lugens</i>	(繁)留鳥	12
スズメ目	セキレイ科	セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	(繁)留鳥	20
スズメ目	アトリ科	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	冬鳥	22
スズメ目	アトリ科	カワラヒワ	<i>Chloris sinica minor</i>	(繁)留鳥	2
スズメ目	アトリ科	マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>	冬鳥	10
スズメ目	アトリ科	ウソ	<i>Pyrrhula pyrrhula griseiventris</i>	(繁)留鳥	8
スズメ目	アトリ科	イカル	<i>Eophona personata personata</i>	(繁)留鳥	68
スズメ目	ホオジロ科	ホオジロ	<i>Emberiza cioides ciopsis</i>	(繁)留鳥	26

ミゾゴイ一般生態

分布

台湾やフィリピンを越冬し、夏鳥として渡来し本州から九州と伊豆諸島の標高0～1000m程度の平地から低山帯の森林で繁殖する。日本列島の特産種

大きさ・形態

体長は49cm程度、ゴイサギより小さく嘴は短い。頭上は赤栗色、体の上面は暗栗褐色雨覆は栗褐色で風切が黒く、先端は栗色。体の下面はパフ色と栗色の縦じまで、中央に黒い縦斑がある。



ミゾゴイ

Gorsachius goesagi (Temminck)

コウノトリ目サギ科

保全価値

環境省RDB 準絶滅危惧

石川県RDB 絶滅危惧II類

アジアRDB 絶滅危惧IB類

鳴き声

「ポー・ポー・ポー」、「イボオーイボオー」「ポーツ・ポーツ」と繰り返して鳴く(時には一声の場合もある)

鳴く時間は、日没から22:00頃までと考えられるが、深夜や早朝などでも鳴くことがある。抱卵すると鳴かなくなる場合がある。

餌場及び餌

- 餌場：溪流などの周辺の湿潤部分、草がうっそうとしていない比較的開かれた空間。営巣場所から採餌のために飛ぶこともあるが、根ザサの間、茂みのなかを走って移動する場合がある。採餌行動は昼間～夕方に行い、夜間は抱卵のためほとんど動かない。
- 餌：ミミズ・サワガニを特に好む、他に、マイマイなどの陸生貝類、甲虫類など

類似種

ゴイサギの幼鳥
コジュケイの歩く姿
アオバズクの鳴声

外敵

ハシブトガラス・オオタカ・ヘビ・テン・フクロウ・ハクビシンなど

生活サイクル



渡来期

渡来時に尾根づたいの木の天辺などの目立つところで1週間程度さえずる。その後、場所を移動して再度さえずりを始める。(移動先付近が営巣地となる可能性が高い)

移動については、近い場合には100～300mの場合がある。

繁殖期

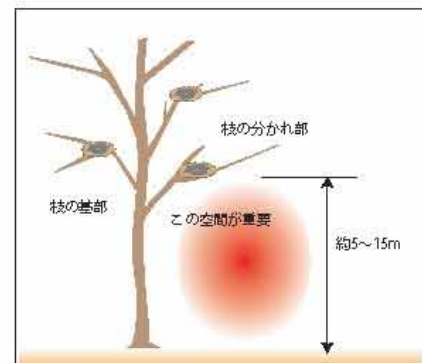
繁殖期は、4月下旬から開始され5月～7月頃くらいまでと思われる。コロニーは形成せず、単独のつがいでの営巣・繁殖を行う。ヒナは3～6個体程度。繁殖に失敗した場合には、再び鳴きはじめ、同じ場所またはその付近に繁殖を行うことがある。

営巣・繁殖が成功した箇所は、場所への執着心が高いため連続して使用する可能性が高い。ただし、同じ巣を利用することはない。

営巣地

営巣環境

- 地 形：地形的要素ははっきりしていないが、谷地田が入り込んだ奥まった谷筋の斜面を比較的好むとされている。
- 営巣木：ナラ・ケヤキ・クリ・アカメガシワ・サクラなどの落葉広葉樹やアラカシ・シラカシなどの樹上で確認されている。
- 位 置：営巣地点から下方向への空間が必要であり5～15m程度であり、幹から出る1～3段目の水平に走った枝の分枝部分に営巣することが多い。巣は、2～3m程度離れており、枝の基部に巣を付けた例はない。巣の上部にも外部から見えない程度の空間が必要である。



巣の特徴

簡易に作成され下から卵が見える場合がある。営巣期間中に補修のため巣材を運んでくる場合がある。巣材は、枯れ枝を用いている(藁は付いていない)。

巣の大きさは30～50cm×30～50cm程度(φ30～50cm)の皿型と思われるが形状に変化が見られる。



- 参考文献：フィールドガイド日本の野鳥 1999年 財団法人日本野鳥の会 日本野鳥 1998年 山と溪谷社 日本動物大百科3鳥類I 1996年 平凡社

- 聞き取り：有識者聞き取り情報

写真帳



ポイントセンサス調査中



林内踏査中



ミサゴ



ハチクマ



サシバ



クマタカ



ミサゴペアA 営巣地



サシバペアG 営巣地



サシバペアF 営巣地



サシバペア G 営巣地



サシバペア H 営巣地付近



サシバペア I 営巣地付近



ミゾゴイ鳴き声調査中(対象地域)



ミゾゴイ営巣調査中



センサーカメラ設置



センサーカメラ撮影個体(ホンダザル.)



センサーカメラ撮影個体(ホンダタヌキ)



センサーカメラ撮影個体(ホンダキツネ)



センサーカメラ撮影個体(ノネコ)



センサーカメラ撮影個体(ニホンイノシシ)



センサーカメラ撮影個体(ニホンカモシカ)



センサーカメラ撮影個体(キジバト)



バイオマス調査中

打合せ・協議記録簿

打合せ・協議記録簿

第1回					追番	-	頁	
発注者 承認印	監督員		課長	係長	受注者 検印	管理技術者	担当者	
発注者名	石川県辰巳ダム建設事務所				受注者名	アルスコンサルタンツ株式会社		
件名	犀川辰巳治水ダム建設事業 動植物調査業務委託				日付	平成23年4月3日(火)		
出席者	発注者側	穴山課長、村山係長、				日時	10:30～11:30	
		張山主任技師				場所	辰巳ダム建設事務所	
	受注者側	■、■、■				打合せ方式	会議・電話	

本業務に関する計画書を提出し、業務の計画および工程について打合せを行った。

- ・試験湛水により影響を受ける種は主にサシバであることを確認した。
- ・瀬領地区のサシバについては、生息の確認、営巣繁殖状況を4月中に確認し報告する。
- ・ミゾゴイについては、広域調査を本年度も実施（4月中旬から5月中旬）

以上

打合せ・協議記録簿

第2回					追番	-	頁
発注者 承認印	監督員	課長	係長	受注者 検印	管理技術者	担当者	
発注者名	石川県辰巳ダム建設事務所			受注者名	アルスコンサルタンツ株式会社		
件名	犀川辰巳治水ダム建設事業鳥類調査業務委託				日付	平成24年6月15日(金)	
出席者	発注者側	和多次長、張山主任技師			日時	13:00～16:30	
					場所	[REDACTED]	
	受注者側	[REDACTED]			打合せ方式	会議・電話	

これまでに実施した平成24年度 犀川治水ダム建設事業動植物調査のうち、これまでの猛禽類の調査結果について有識者に報告し、今後の保全対策の方針について打ち合わせを行った。

報告の内容について
対象地域のサシバの繁殖状況を確認し実施する

指摘事項
斜面崩壊に伴う対策工事については、瀬領のサシバの繁殖状況を確認し実施する。時期的には7月末まで中止したほうがよいとのこと。
ダム供用後もモニタリング調査を行い、確認を行うこと。

以上

打合せ・協議記録簿

第3回					追番	-	頁
発注者 承認印	監督員	課長	係長	受注者 検印	管理技術者	担当者	
発注者名	石川県辰巳ダム建設事務所			受注者名	アルスコンサルタンツ株式会社		
件名	犀川辰巳治水ダム建設事業鳥類調査業務委託				日付	平成24年11月28日(水)	
出席者	発注者側	穴山課長、村山係長			日時	10:00～11:00	
					場所	辰巳ダム建設事務所	
	受注者側				打合せ方式	会議・電話	
<p>平成24年度に行った犀川辰巳治水ダム建設事業鳥類調査の納品前の打合せを行った。</p> <p>報告書については了承を得たが、以下の内容を追記する。</p> <p>ミゾゴイの今後の調査について、洪水により貯留した後のバイオマス調査の実施について記載する。</p> <p>平成25年度以降の調査については、ダム事業関連事業終了後についてモニタリング調査を目的として調査内容を検討することとなった。</p> <p style="text-align: right; margin-top: 20px;">以上</p>							